6
神さまの怨結び
かみさまのえんむすび
守 KAMI 月 ZUKI 史 SIKI 貴
Champion RED Comics
RED

神さまの怨結び 6

かみさまのえんむすび

守月史貴

Champion RED Comics

目次

前巻まで

刑事である安登まつりの父は、怨結びへの手がかりとして
クビツリを捕らえる。一方、再び蛇(くちなわ)に神社へと
召喚された櫻は、蛇(くちなわ)に頼まれごとを
されようとしていた。そして……!?

初出
チャンピオンRED2017年10月号～2018年6月号

第二十八節❖神社のカゲ
『――いたい――』
『――くるしい…』
『たすけて――――…!!』
千石!
このままじゃ
千石が死んでしまう
どうしたら
どうすればいい
あいつ
また傷が
増えてた――

嬢ちゃんの方から誘って
もう無理だよ
私が
今も委員長を滅茶苦茶犯したくて
私のせいで
千石揺はもう

……はーー…っ
はあっ…
はっ…
はぁ…、
10:21
トピ…
ポキ
……逃げなきゃ
……
ポタ…

……ここにいたら・・・
もうあいつらに

復讐——
できない……

もう『前みたいに』部屋を抜け出すんじゃないよ
…いいね？
ガチャン。。
チャリッ…

………………ッ

くそッ

くそおおっ!!

ガチャ
待たせたね
取調室3
……
……どうする……
俺たちの目的は
怨結びの呪いを
使い果たし
しかし
封印の解けた
赤縄であれば……
だが――
蛇に怨は結べても
縁を結ぶ力はない
蛇自身の呪いを
解くことで犠牲者を
元に戻すことだ
恐ら
可能
こいつらが その邪魔を
するのなら――
下手に情報を
提供すべきじゃねえ
たとえ何を
されても――……!!
さて

訊きたいことは
山ほどあるが
我々にも君がどこまで
呪いに関わっているか
未知数だ
とりあえず
知っていることを
素直に話して
くれればいい
……おい
強引にでも
吐かせるんじゃ
なかったのか
はっはっは
それは君が
『元々人間でない何か』と
断定出来た場合の話だ
もし君が人間で
『身元』が判明すれば
その限りではない
身元…俺が
死ぬ前の――？
……分かるのか
それは君の
協力次第だ
この少女たちの中に
見知った顔はあるかね？

如月千緒子
江西知霧……
こいつは――確か
蛇に呪い返しをした……
……ああ
一部 怨結びに
関係ない奴も居るようだが
ほとんどは……
呪い人を捜査で
見つけ出した
ってのか？
……すげえな
こんな証拠も痕跡も
残らないもんをいったい
どうやって――……
こいつは…！

『名無(ナナ)』とか名乗ってた白いガキ――……
こいつ女…だったのか…？
『まつり』
私の娘の安登(あとう)まつりだ
やはり君は・・・この姿にも見覚えがあるんだな
まっ…待てよ!!
こいつは被害者の会とやらの黒幕だぞ!?
明確に意思を持って動いてた
そいつが安登まつりのはずはないんだ!!
お、おい、
安登まつりは…自我を失っ――
――教えろ

あの子に何が起きている

呪いの代償とはいったいなんだ!!!

…っだ
代償…は

…個人差はあるが
生涯誰とも結ばれない
という制約……

蛇が言うには
まつりが抜け殻に
なったこと……

それがあいつの
代償っ
だったはずだ…!!

バタ
バタ
バタ…

まつりが

部屋に
居ない……?

頼…み……？
ハッ
バッ
圏外…!!
…じゃあ
此処は
本当に──
『あの時』の…！
……ここは
かつてそなたが
呪いを授かった神社だ
懐かしかろ？
ザザ…
ザ…
……クビッツリ無しで
呼べるかどうかは
賭けであったが

私が稲葉を消したから……

……そう
怯えずとも良い
なに 以前にも話したことだ
『いつかクビツリの力になって欲しい』と

きゃあぁ!?
いっいき…
いきなりこんな場所に
引きずり込んでッ
なななにするんですかぁ!!
神の御前だ
無礼者
まずは池で身を
清めてもらう
話はそれからだ
そんなっ
勝手にそっちから
呼んでおいてっ…

ああそうだ

……そなたは妾が
この空間に無理矢理
連れ込んでしまった故

まだ知らぬ
だろうが――

クビツリがそなたの仲間に捕まった

なっ……

……が妾は以前のようにあやつを助けるつもりはない

訊きたいことがあれば気が済むまで訊けばよい

……その代わり力を貸して欲しいのだ

力を…貸す？

クビツリさんが捕まっているから――……

……でっ
できません!!
……なに？
あ あなたは以前…
私にすまないと
謝罪しながら
今後も呪いを
与え続けると言った
でも…っ
私は
怨結びを止める為に
警察官になったの!!
……
だから…呪いを
手伝うなんて
できません!!
誰が怨結びを
手伝えと言った
え

先日この神社に
童が迷い込んだのだ

妾も初めてのことでな
……いや 初めては
クビツリなのだが…
とにかく
滅多にない事柄ゆえ
原因は皆目見当がつかぬ
だがそやつは
こう言ったのだ

迷い込む前
自分は
『おばけ神社』に
居た……と

おば…け
神社……

…神社!?
って…まさか――
実を言うと
妾自身
妾の過去も
神社のことも 大分
記憶が欠けてての

分かっているのは
妾を封じた呪いとも言える
この赤縄――

これを『怨結び』として
望む人間に与え続け
全て無くなったとき

妾は本来の力を
取り戻す

――…何故だろうな

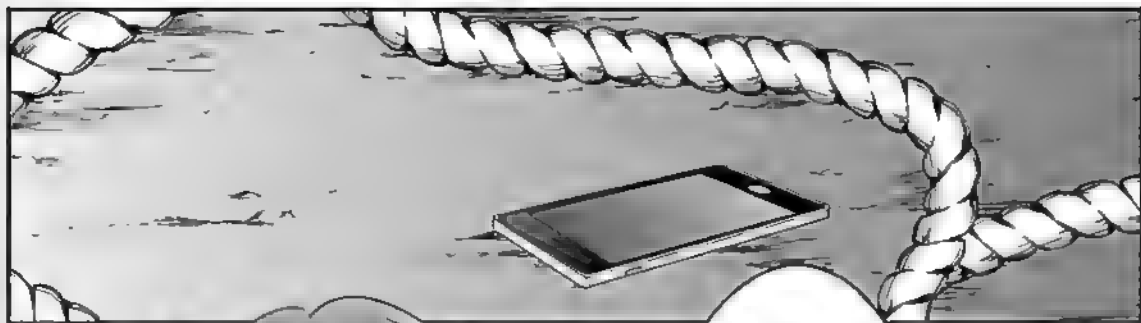
妾もまた――

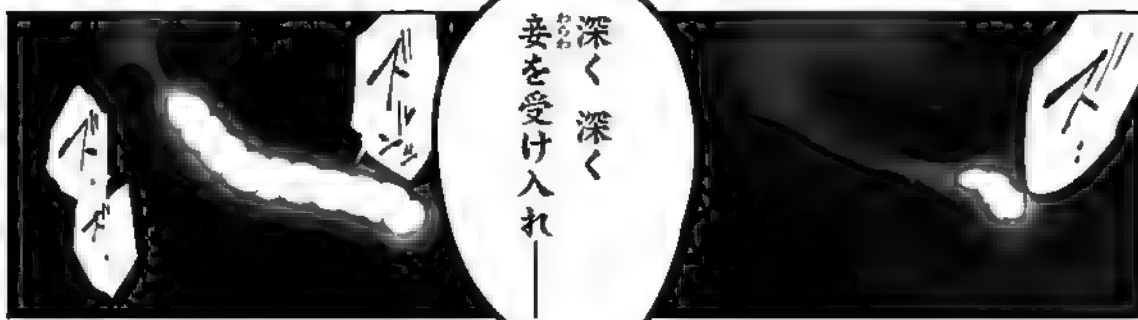
今はそれを望んでいるのやもしれぬ

——ゆえに
妾の縛られたこの神社と
現世に存在するという
『おばけ神社』なるものに
所縁があるのなら
是非とも
その神社を
調べたい
ゴゴ
ゴゴ
……えっ？
いま…あれ？
一瞬 蛇が別人に
見えたような……
ザザ…
ザザ…ッ
……気の
せい……
探すための
手がかりは——
他ならぬ
クビツリだ

あやつは
この神社で
命を絶ったが
元は
ただの人間だ
クビツリの
生前の足取りを掴め
さすれば妾の元に
辿り着く直前に居た場所――
すなわち
件の『おばけ神社』に
繋がるやもしれぬ
……!
……ですが――
調査はしてもクビツリさんを
帰すわけにはいきません
彼が戻れば呪いを
再開するのでしょう?
…わっ
分かりました
情報提供……
感謝します!!
あなたの目的は
分かりましたが
現段階では憶測に過ぎず
不確定要素が多過ぎます
……そうだの
妾もそなたが
呪いを見逃してくれる
とは思っておらぬ

だからわざわざ・・・
そなたを主の元へ・・・・・・
呼んだのだ・・・・・・
えっ……

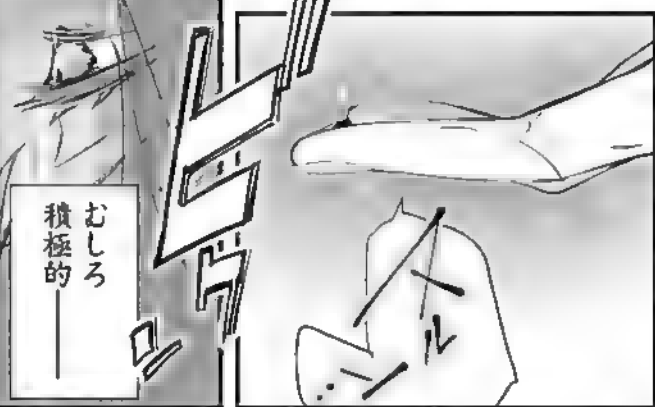
あのー
警部……？
お嬢さんがどうか
されたんで…
おっかしいな〜〜〜
送信先は間違ってなんか
ないはずなのに
どうして櫻先輩に
送れないんだ？
さっ
さすがに心配なんで
ちょっと
電話してみます
……あれっ
またた
送信エラー0213
ユーザーIDが存在しません

この神と契りを交わして貰う
そなたは生者ゆえクビツリのようにはいかぬが
……体が……動かない
このために禊をさせた
なに 苦痛はない……それでは意味がないのでな

心を開け
ズ・
深く 深く
妾を受け入れ——
ドルンッ
ズ・ズ・

妾(わらわ)の　になれ
誰か
助けて……

第二十九節❖深傷風景

言葉に反して
なんの抵抗も…いや
むしろ
積極的――
……人間とは
こうも容易く
他者の『侵入』を
許すものだろうか――

……そなたは
かつて怨を結んだ
稲葉とやらをしきりに
気にかけているようだが
……何故だ？
もとはといえば
憎くて消したのでは
なかったか
……分からない…

ではそなたが
怨結びを追うのは
あやつへの罪滅ぼしか

……私 できるなら
稲葉を助けたい……
別にあいつのことが好きだったとか
罪滅ぼしだとか
そんな綺麗なものじゃない……
私はたぶん
その……俺言いたいことが……
あの言葉の続きが聞きたい…
櫻のことが…っ!
…それだけなの
そうしないと私はいつまでも前へ進めない…

これは……
私 あれから…
沢山の人と付き合った
色んな人が
私のなかに入ってきた
でも
誰一人
私を『ここ』から連れ出してくれる人はいなかった……
この…娘――
◆人間とは
こうも容易く他者の
「侵入」を――…◆
ああ
そうか

こやつもまた――
妾がどうしようもない程に
『壊して』しまった一人 なのだな……
…結局 稲葉に縛り付けられた私を解放できるのは
稲葉だけなのかもしれない
だから……元に戻したい
――ひどく
自分勝手でしょう……？

ザザッ!!
──櫻くん
怨結びの重要参考人が失踪した

遠くには
行けないはずだ
君も至急捜査に
当たってくれ
…黙っていて
すまない
以前は訳あって
自由にさせていたが――
名無の正体は
私の娘だ
100YEN

……
対象は――

被害者の会
SNS上で『名無』と
名乗っていた少女…

今のまつりの
精神状態では――

何をするか
分からない

……事情は後で説明する
一刻も早く見つけだすんだ
……
まつりちゃんを…
…さがさなきゃ…
――この男には私が付く

佐々くんは他を当たってくれ
わっ…分かりました！
お嬢さんの通学路周辺や同級生を当たってみます
ババッ
……もう付けなくていいのか？
手錠
さっき君は随分正直に答えたろう
私にも相手が嘘をついてるかどうかくらい分かる
少なくとも呪いの対象となった噺に敢えて接触したその理由から——
呪いのことを抜きにすれば〝情が深く誠実な人物〟
……そう言えなくもない
…買い被りすぎだ
勿論

万が一 妙なそぶりを
見せたら容赦はしない
両足でも撃ち抜けば
多少の足止めには
なるだろう？

……とんだ
サイコ野郎だな
涼しいツラして
えげつないこと言いやがる
出来れば
そうならないことを
祈ってるよ

さて…それより今は
『あれ』の行き先だ
君に心当たりは
あるかい？

………
名無の行き先──か…

名無が行きそうな場所はどこだ――？

…あの子が本当に
まつりちゃんだとしたら
かつての記憶に基づいて動く…？

だとすれば…あいつが千石撫に呪いを使った公園はどうだ
……いや
蛇が言うにはまつりの魂はそこにない…
それ自体が代償だ とも
奴が果たして そこまで知っているかどうか――

……そう 聞いた話ではまつりちゃんは別人のようになってしまった……
現在あの子自身にとって親しみのある場所は
家…病院……
…ひどく限られるはず

例えば被害者の会が　たまり場に利用していた――

……廃倉庫……!!

なるほど
以前君が監禁されたという
倉庫エリアか…
向かってみよう
……ああ
一つ訊き忘れていた

ザリ…
ザリ…
ザリ…
ザリ…
まつりに取って代わった『あれ』は——一体何だと思う？
——僕はまがいものじゃない…
ザリ…
好きでこうなったわけじゃない…
……それともほんとうは僕が『間違い』で
だから誰も僕を見てくれないの？

僕は…ここに居ちゃ　いけないの？
…おい!!
クビ
ツリ……？
お前…こんなとこで何やってんだよ!!
……そうだ
こいつらに復讐すれば――見てくれる
きっと僕を認めて――

……え？
なんで…？
どうしてクビツリが目の前に居るのに
な なんにもしないわけ…？
なんて当たり前みたく一緒…に……

なんで怒んないわけ!?
そいつがっ そっ…
ママをこんなにした張本人じゃないか!!
悔しくないのかよ!!
?
あんたがそんなだから僕が復讐してやろうっていうのにさ
そしたら今度は僕を閉じ込めて……
……お前さっきから何の話…
を……

……一面の──絵
よく見ると三つ並んだ──…人間か…？
二つに縛ったような髪……
…これは自分自身を描いたのか？
真ん中のやつは……大きさからいって子供──…

魂のみの存在となって

男の旅路に同行してるのやもしれんな……

子供……?

…術後?

…ええ

残念だけどね…お腹の子は…

『ママ』

……いやそんな…

馬鹿な…こと……

お前…まさか

安登まつりの

…憎いさ

だが私の目的は
お前を元のまつりに戻し
呪いを止めることであって
この男を殺す
ことではない
……元に戻す
元に戻すって
それ
ばっかり……
……
だったら
僕が──
僕が…
やってやる!!!

やめろ
まつり!!
まつりじゃない
って言ってん
だろッッッッ
!?

……あ

ママが
死ん
じゃう
ドロッ
いっ……

てぇえ―――…
……さけんなよ…
……よく…
分からねぇけど
お前
お前がもし
ホントにまつりの子供
だってんなら――
ポタ…
ポタタ…
母親の帰る場所
無くして
どうすんだ!!
…
…
しん…
じる…の？

…はあ？
……いやまあ 正直 信じ難いけど…
ってお前がそう言ったんだろうが
〝僕を…認めて……〟
あっ…おい!?
あ―――
…僕の復讐ってなんだったんだろ

ほんとうは――

一番憎かった相手に

初めて

認めて貰う なんてさ…

話したこともない
パパやママの ため じゃなく

ただ 誰かに・・

『まつり』

『姉ちゃん…』

『僕』を……

……寝やがった
すかー……
死産になった
まつりの子供――
蛇なら何か
分かるかもな…
……娘を
助けてくれて
礼を言う
すぐに戻って
手当をしよう
……俺のことより
あんた…
『こいつ』ともっと
話してやれよ
俺が偉そうに
言えた義理じゃ
ねえけど
少なくとも――
今のこいつは自分を
まつりのことを…
親だと思ってる
……ガキ
なんだからよ
……君の話は
理解に苦しむが

私に孫が出来た覚えはないし
『これ』が消えればまつりは元に戻る
話すことなど何もないよ
なっ…
こいつの話聞いてなかったのかよ!?
私は事実に基づいて返したまでだよ
てめっ…
安登警部!!

お前……
——捕まってるって
蛇が言ってたけど……
本当だったん
ですね
ヘッ…

お久しぶりです
クビツリさん
呪いを解明
するために──
あなたの過去…
調べさせてください
……
こいつっ──
あの
櫻か…？

……俺
病院なんかにかかって
大丈夫だったんだろうか……
予め ある程度
事情は話してある
君の身体に
異常な点があったとしても
騒ぎになったりはしない
はあ…
安登
ちょっと
いいか？
すまないが
しばらく
待っててくれ
！

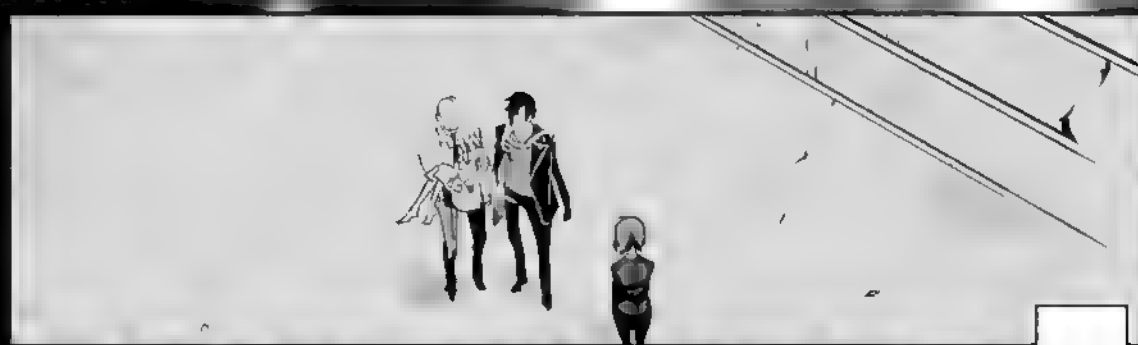
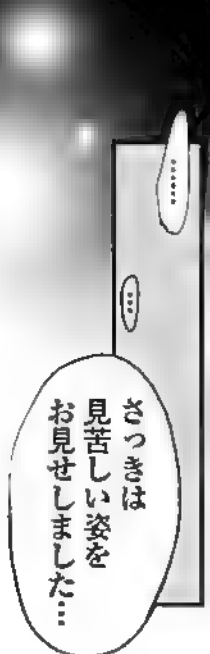
第三十節 彼女の贖罪

こいつっ――
あの…櫻…か？

なんか…
様子が……。

……くん
櫻くん！

はっ

どうした んだ？・・・その格好……
ここへ来るまでに何かあったのかね
え……
!?
ゆさっ
？
!?
…しっしし失礼しました!!
……連絡が付かなかった理由は後々聞かせて貰うとして…
今は二人とも負傷しているので急ぎ知人の病院へ向かいたい
わ…分かりました！
ねぼけてんのか…？
……
…
さっきは見苦しい姿をお見せしました…

会うのは三度目ですけど……
クビツリさんは初めて会った頃と――全く変わりませんね
……悪いが俺は二度目なんだ
こいつも見た目は学生の時とほとんど変わりねえけど…
刑事ってことは少なくとも成人してるよな
すげー童顔
前回のは…その覚えがねえ
知ってます……あれは蛇だったんでしょ？
本人から聞きましたから……私
ここに来る前 神社で――…彼女と話してたんです
…なんだって!?
あなたが亡くなるまでの足取りを追えば神社の手がかりが掴めるかもしれない
だからその手助けをして欲しい…って
――…!

そうか…!!
〝アテもなく闇雲に探し回ってどうにかなるものでも――〟
〝身分の怪しい俺じゃ動ける範囲も限られる……〟
警察の手を借りられるなら話は別だ――
もしかしたら本当に…呪いが解明できるかもしれねえ…!

しかしあいつがそんな根回しを――…
……まさか
そこまで見越して刑事になった櫻に接触してたってのか?

櫻には悪いが運が良い――
……他には?
蛇から何か聞いたか

……えっと…
そのことを頼まれて…
…んっと…

?
………

それだけ…かな？
……気付いたら……こっちに戻ってましたから
……？
そう…か ならいいんだ
………
それにしても——
"牛乳は巨乳の秘訣"ってマジ？
・・・っ
つーかお前もう十分牛レベルなのに

からかう男子に抵抗もできず
こちらの一挙一動にビクビクしていたあの子供が
刑事――か
あいつらの同僚ってことは
やっぱり怨結びを追うために――……
――強くなったな…
?
いや…お前がな
以前とは見違えるほど立派になっ――――
…あっ

あなた私のお父さんですか!?

なんでそうなる
だって今のまるで子供の成長を見守る親みたいな発言じゃないですか!!

あなたたちにとっては私と初めて会ったのも つい先日くらいの感覚なんですかね…?
あ〜〜〜
私だけ年取ったみたいでなんか悔しい…
おいおい…
中身はガキとあんま変わらねえな…

……お前に会ったら…
…謝りたかった

行方知れずの先輩が
見つかったと思ったら

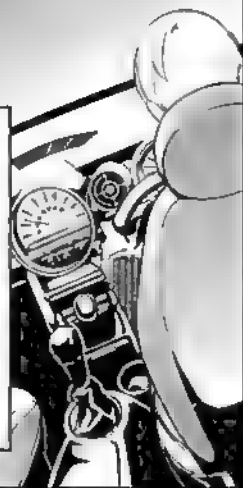
怪我…!?

もし先輩が
無事だとしても

警部と合流した
ってことは今
あの縄男と一緒…

誰が? まさか
先輩なんてことは――

〝やっと…〟

〝見つけた〟

こんなの気になって
おちおち待って
られないっての!!

あの頃の俺は――

お前ら呪い人を
なんとかして
…止めようとしてた

もわからん
は呪いなんぞに
を抜かす前に

保健体育の
勉強してこい

当時お前を見た俺は
ちょっと脅せば
びびってやめると――

…そう
高を括ってた

だが俺の軽率な言葉が
かえってお前を焚きつける
結果になって……

俺が…
余計な事を言わなきゃ

今頃 お前らは――……

……やめてください!!!

……確かにあの時はなんてひどい人だろうって…思いました

子供だからって馬鹿にして…っ

見返してやるって…そんなくだらない意地も少しはありました

全て私の罪(もの)……

誰にも渡さない

……それを安易に肩代わりなんてして欲しくない！

……わ

わるかっ……

先輩!!!

何……
やってるんだ お前
病院で
櫻先輩…と……
縄男――
櫻先輩に何をした!?
ちょっと…佐々君こそ何してるの!?
変な誤解しないで私が勝手に――

少し……黙って

……今まであなたには隠してきたこと
全部説明……するから

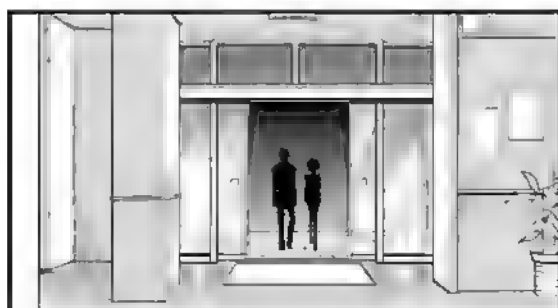
ちらっ

……でもここでは話せない……

車に移動しましょう

？

……いや
安易に肩代わりなんてして欲しくない!
…怒るのも当然か
……驚いたな……
恐らくあいつは何年もずっと…たった一人で抱えてきたんだ――
今更謝罪一つで何になる?
単に俺が楽になりてぇだけじゃねぇか
あ――……
くそ情けねえ…っ
ヴーヴヴ
これ桜の…だよな?
ドキ
ドキ
なんか鳴ってっし
――仕方ねえな
ま ちょっとくらい離れても問題ねえだろ……

ゾゾ
それで――さっきの話だけれど…
…先輩は!!
やっぱりあいつとそういう関係だったんすか!?
……え？
怨結びを追ってる僕らにとってあいつは諸悪の根源の一人――
追い詰めるべき相手ですよ！
い…言うか？
言っちゃうのか!?
なのに先輩ときたら『ひどい人』とか『誰にも渡さない』とか…
ぼ僕が口出しできる立場でないのを承知の上で言いますけど…

ぶっちゃけると
男女のそれにしか
思えないっす!!
ああ──
言っちゃったあ
あああああ!!!
……佐々君
もし…間違ってて
不快にさせたら
ごめんなさい
でも
もしかして──
私のこと…
・・・・・・
そういう対象として
見ちゃってる…?
きゅんっ
可愛いイイ
・・・いっ

いいいいやっ
そりゃ先輩は魅力的だし
おっぱいでかいし
仕事できるし
揺れ方半端ないし
むしろ最初はそんな本気になるつもりなかったっていうか
……憧れは……
ありましたけど…
ああ…僕ってやつはどうしてこう…
?
……僕警部から連絡来たとき
先輩が怪我したのかもーって考えたら いてもたってもいられなくなったっていうか…
正直なところ言えば——
揉んでみたい!!!
…自分でも驚いてるんですけど

もしかしたら ちょっと
…そうかもしれない…と
思わなくもない…っす
…なっ
なーんて！
い…言ってる場合じゃないっすよね〜〜〜!!!
そっそれより先輩のヒミツ？って結局なんなんすか？
勿体ぶらないで教えてください
よっ…
ぽすっ

……ごめんなさい……
『そう』ならないよう
あなたには特別厳しくしてきた
つもり…だったのに
え？
せ 先輩今…
なんて…
ギッ
…気持ちには
応えてあげられ
ないけど……
これから一緒に
仕事する上で支障が
あっても…困るから——
……仕方ないよね
シュル…
…いいよ

私にしてあげられるのは……
こ・これ・しか・・・ない・から
あっやわらか…
これ…夢かな!?
だってあのお堅い先輩が――
告白OKから即やらせてくれるなんてさすがに都合…良すぎ…
はあ

あっ♥
そこよわっ…
これが、櫻先輩の…!!
だっ…
甘い匂いと…かすかに汗が香って
めえっ
はっ♥
あぁッ!!
あ…!
んっ…ーー
待ってね…今…

かぷぷっ
ア♥
は…んっ
ふっ…
つぅ──…
ちゅっ
…せ
先輩
嬉しいけど その本番は…マズイっすよね？
だ誰かに見られでもしたらタダじゃ済まないし…
っ続きはこれからいつでも出来るんで──
もっとロマンチックなホテルとかですね
あ…そうだ
先に言っておかなくちゃね

私
佐々君のこと
好きには
ならない
なれないんじゃなくて
ならないの
え
……え?
なに……
絶対に
…なんで
ですか??
だったらなんで
こんなこと…っ
だ…
騙したんすか!?
…… …
私が……
かつて
怨結びを使った
呪い人だから……

それ以来
何人付き合おうが
どれだけ愛されようが
その人たちを愛したことは
一度もなかった
本来ならこんな人間に
刑事をやる資格はない
……だって
私は
恋愛感情を代償に――
人を消した
罪人だから
……
…
だからこそ せめて私は
私に好意を持ってくれた人を
受け入れるの
佐々君のことも――
先輩……
すみません

おれ……
できません……
……なあ

蛇
俺たちのばら撒いた呪いはどこまで連鎖するんだ？
一見普通に見えても その実
呪いを使った奴らは誰一人として――
まともな人生歩んじゃいねえ
どこかしら壊れちまってる
呪い人だけじゃない
それに関わる人間……
下手すりゃ子孫までも巻き込んで俺たちは――
!
……

お前ら……
櫻先輩まで……
あんなにしやがって
今は協力体制だから
手は出さないで
おいてやる
…けどっ
…絶対に
許さないからな!!

第三十一節❖符号

……クビツリが居なくなって
随分経ったような気がするが……
首尾良くやれているかの…？
あやつは何かと要領が悪いからのお…
………

……何時ぶりかの
これほど長く
一人で過ごすのは――

カララ…

あいつらに捕まった
あの日以来

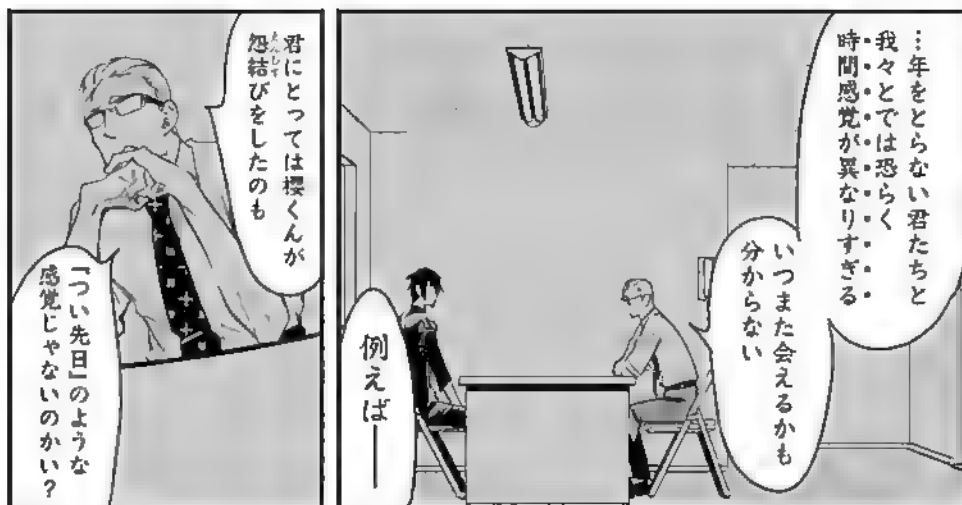
俺はこの部屋を
与えられ

ぶるっ

そのまま神社に
戻ること無く

……今朝は特に
冷えるな……

ひと月が
経った

カチッ

『彼女は警察を辞め――
罪を償う覚悟だそうだよ』

それは俺も同じか……
蛇の呪いが解け――
全てが元に戻ったら
俺もまた 蛇と一緒に
罪を償う時がくる――…
やべえ今日燃えるゴミだ!!
「…もう一つ条件がある」
「君は食事や睡眠を必要としないそうだが――」
「ここでは人間らしい生活をして貰いたい」
おっと
「そうすることで思い出せることもあるかもしれないだろう?」
「それに――先日君を診た医師によれば君の身体は極めて生きた人間に近いそうだよ」

『――ならば普通の生活も不可能ではないはずだ』
あれから俺は眠れなくても寝る努力をして
腹が空かなくても多少食事を取ってるが
今んとこ支障はない…な
これといって思い出せたこともねえけど
……もう蛇とは長いこと連絡つかねえし
これじゃまるで…普通の人間じゃねえか
……本当は こちらの世界が現実で
怨結びの仲介をしてたのが夢だったんじゃねえかって程に――……
ガチャ
スカ
でッ
……あれえ？

まーた鍵かけてないんだ
不用心だね〜〜
ま
こーんな貧乏くさくて陰気な男一人のアパートに入る泥棒も居ないかあ〜
……まくたくお前かく……
名無!!
てめえ用もねえのにしょっちゅう来るんじゃねえ!!
えー

だってさ〜〜せっかく外出解禁されたのに遠くに行くと怒られるし
お小遣いちょっとしか貰えないし
日中ヒマで死にそうなんだよ〜
どーーーん
ひっつくな
だいたいお前あんだけ俺のこと殺す殺す言っといて
ぐぐ
ぐ
ぐ
どういう風の吹き回しだよ…っ
そりゃ僕のこと理解した上で『名無』って呼んでくれるのはキミだけだからさ〜
ママを助けて貰った恩もあるし
僕は案外義理堅いんだよ？
僕らの『共通の敵は蛇』ってことにすればホラなんか筋は通るじゃん？
いやその理屈はおかしい…
……つーかお前
そういう格好してっと…その
…まるで安登まつり だな

……僕だって
ホントはこんなカッコ
したくないよ

でもママの家族はみーんな
ママがおかしくなったと
思って僕を閉じ込める

だから僕はなるべくママのフリをして
回復したように見せれば
制限が緩くなる

自由を得るための
代償だから仕方ないね〜

夜間高校だって
仕方なく
行ってるけど

もー毎日
死ぬほど
退屈だよ！

元の学校に戻るのは
難しいだろうし無難な
選択だろうな…

ガ―……

……って

言ってる場合
じゃねえ！

ゴミ―――!!!

あの車止めれば
いいの？

バカお前
なにをっ……

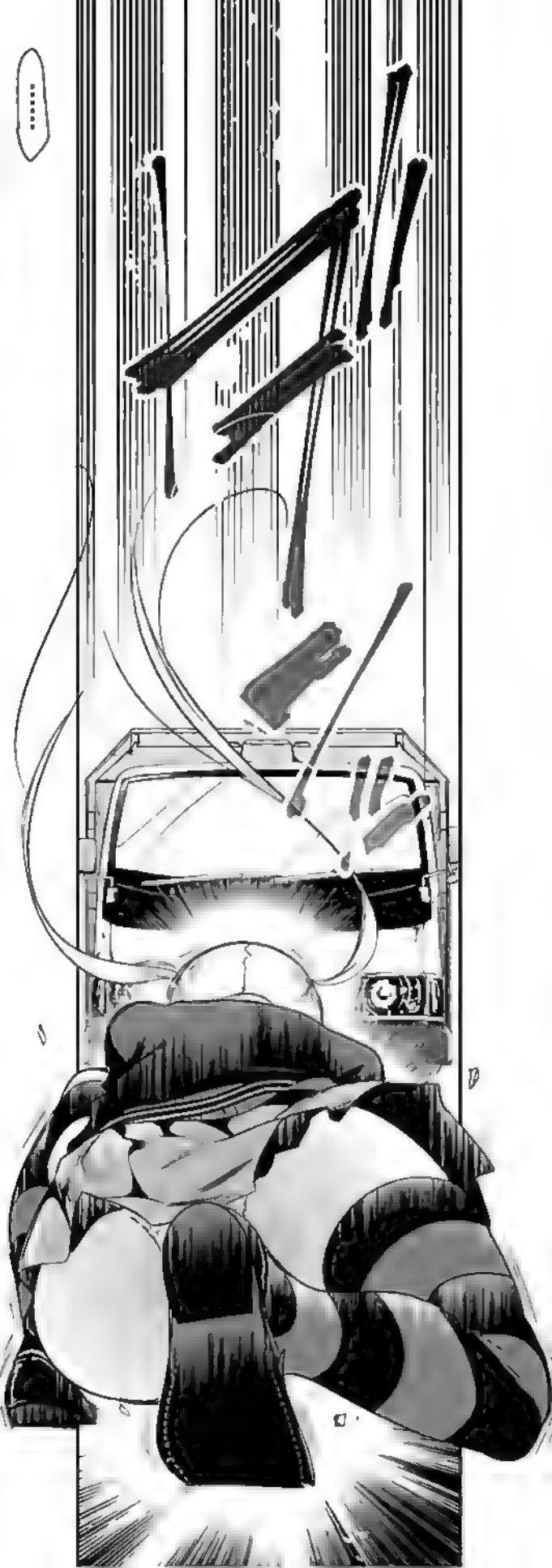
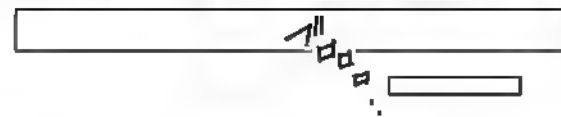
……

……
…ほんっとにすみませんでしたっ!!

お前も反省しろっ
スミマセンデシター

ブロロロ…

ああ…朝からどっと疲れた……
……

……ねークビツリさんさあ

もう蛇の使い
なんて辞めて このまま
ここで暮らしちゃえば？
このまま…暮らす？
普通の──人間として…？
それ…は──
!!
うわっわっ
えーと
通話…通話…
相変わらず扱い
ぎっこちないなー
今時お爺ちゃんでも
スマホくらい
使いこなしてるよ？
うっせ
あー…あんたか
今日も
捜査協力で？
……いや

君の生前の身元が……
判明したよ

その中に調査をまとめた資料がある
中を確認してくれ

ゴく…

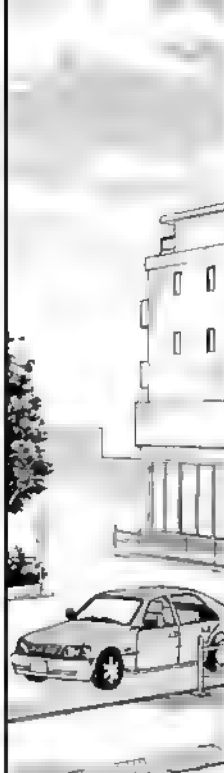
『九来木 辰巳』行方不明当時22歳
パラ…
……その写真と名前に見覚えは？

……ない

……そうか

顔立ちや年齢・失踪年と
櫻くんの怨結びの時期とが
重なっていることから

この男でまず
間違いないとは
思ったが……

君自身が何一つ
思い出せないのでは
確認のしようがないな

〝どうもギャンブル漬けの後輩に頼まれて 借金の連帯保証人になっていた〟らしい
その後 後輩は失踪
仕事先にまで借金の取り立てが押しかけ 結局君は辞めていったそうだが
自殺理由は…もしかしたら
………
──そうだ
神社は!?
俺の身元が掴めたならそっちの手がかりも──
……着いたよ

ここが――
君の自殺したという神社だ
――なっ…

確かに〝おばけ神社〟と呼ばれた神社はここに存在した
だが今から27年前――
君が10歳の頃にはとっくに潰されこのマンションが建っていたそうだ
神社が…ない…？
じゃあ
俺が死んだあの場所は？
神社が無いのにどうやって――
『赤縄を使って』自殺したっていうんだ…!!

ねー
いいかげん元気出しなよ〜
とりあえず神社は確かに『昔は』あったんだからさぁ
これからそこの歴史？とか調べればいーじゃん！
なんなら僕も神社近辺に住んでる被害者の会の子たちに情報収集頼んでみるし――
…俺が何者か分かってても

神社の跡地が判明しても
情けねえことに俺自身は何一つ思い出せねえ
捜査協力だってなんの力にも……
それどころか――
本当に俺は神社で死んだのかどうかも
分からなくなっちまった…っ
!
どうして俺には記憶がない…？
結局俺にはなんにもできねえってのか…⁉

……櫻……？
……クビツリ……
……こちらに……資料を
……？
ああ
お前もまだ全部見てないのか？

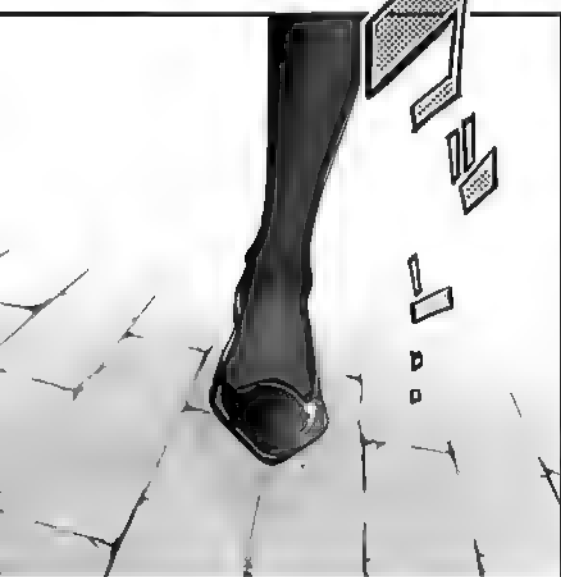
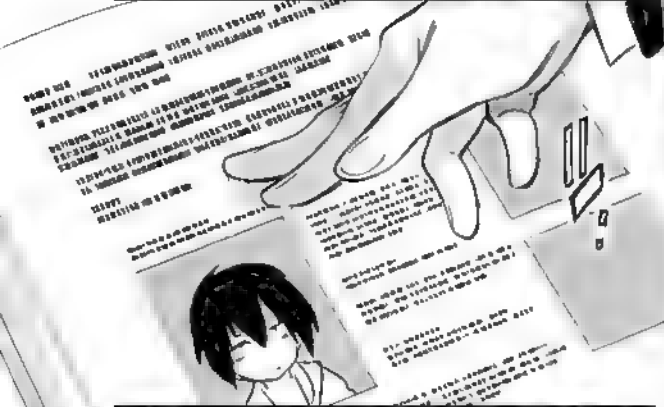
ハッ…

……どうした？
…ああ こいつの小学校の――…
卒業写真か
いや こいつっていうか俺なんだろうけど…
何故……
何・故・
あ・の・童・が・

あ？

わ…何？

…クビツリ離れろ!!

…そいつ…なんか変だ!!!

〝何故妾がお前の家に行かねばならんのだ〟
〝この町で初めてできた友達だから――!〟

〝…あいにく妾は神社を離れられぬよ〟
〝ここに縛られておるからの〟

〝じゃあ――おれが出してやる!〟

〝…ユビキリ?〟
〝ユビキリっていうのは――とにかく『結ぶ』って意味――〟

妾と 縁を『結んだ』から

あの 童は――

〝お前が赤縄に戻れば呪いは無くなるんだろ?〟

〝だったら手伝ってやる〟

〝もうお前を一人残して逃げたりしねぇ〟

〝最後まで付き合うよ――〟

死んでまで…
妾を助けに来いなどと

頼んだ覚えは
ないぞ…!!

ガバッ
──おい…
…櫻!!
馬鹿者…
が…
……
…

第三十二節❖帰還

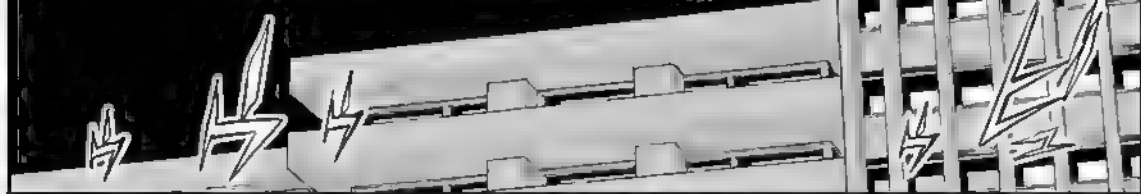
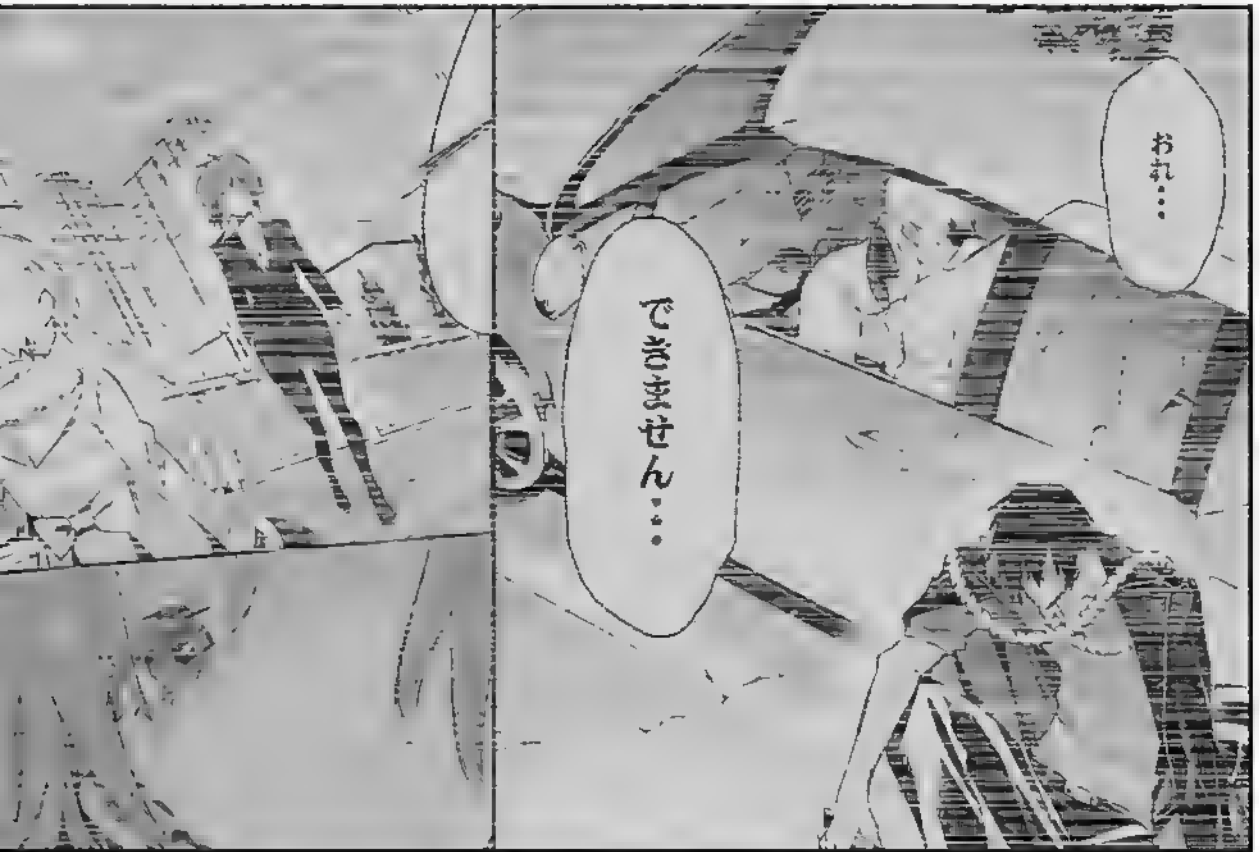
なんか……
ここのところ
やたら病院に縁が
あるような
3度目だぞ・

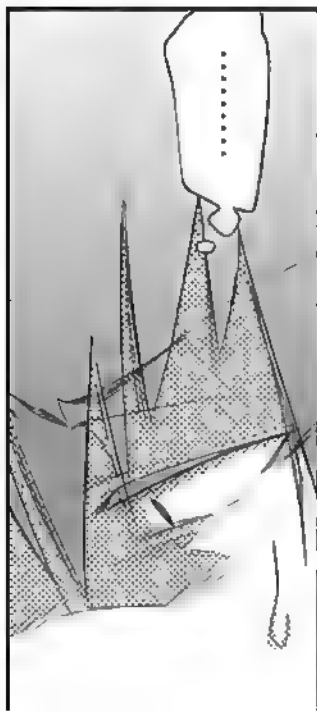
櫻くんだが
これといって異常は見られないが念のため精密検査をするそうだよ

……そうか
櫻——

おれ…
できません…

先日といい倒れる直前といい
明らかに様子がおかしかった
あいつ……今かなり不安定なんじゃないか？

それと もう一つ不可解なのは
ぎゅうっ
——…

…名無(コイツ)は何をそんなに警戒してんだ？
いてーよ
……まつり
そろそろ学校の時間じゃないかい？
車で送るからその男から離れて支度をしなさい
イヤだ!!
あいつ……
なんかヤな感じする!!
？
桜なら医者が大丈夫だっつってんだから心配ないだろ
そうじゃなくて…!
あんまワガママ言ってっとまた外出制限されるかもしれないぞ

……分かった
行くよ
行けば いーんだろ！
まつり！
全く……
ずいぶんと君に懐いたものだ
じき佐々くんが来る
それまで櫻くんを頼んだよ
あっ
ああ——
………

『あれ』からあの刑事とは
一度も顔を合わせてない
捜査協力の
立ち会いでも
見かけなかった……
ただの偶然かもしれねえが――
何か……
得体の
知れない
不気味さ
というか――
『クビツリ』

!?
うわッ
びっくりさせんじゃ…
おま……
居たならなんか言えよ!!
いつの間に来やがった

――いいから黙って従え

これからお前が行くべき場所へ――
案内してやる

あ…
く…んっ

………
階段？

…こんなとこに連れてきてどうする気だ？

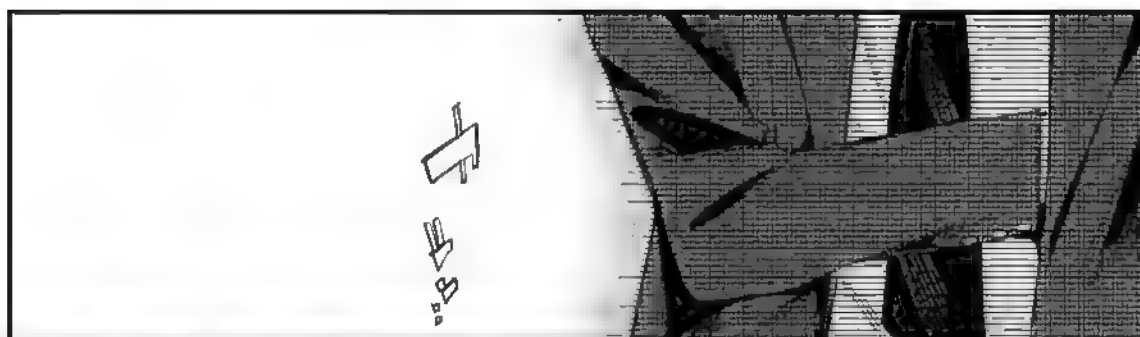
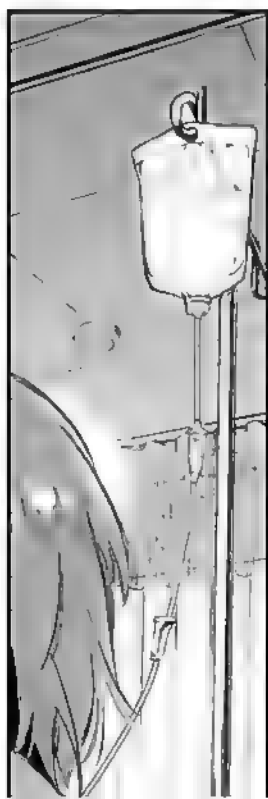
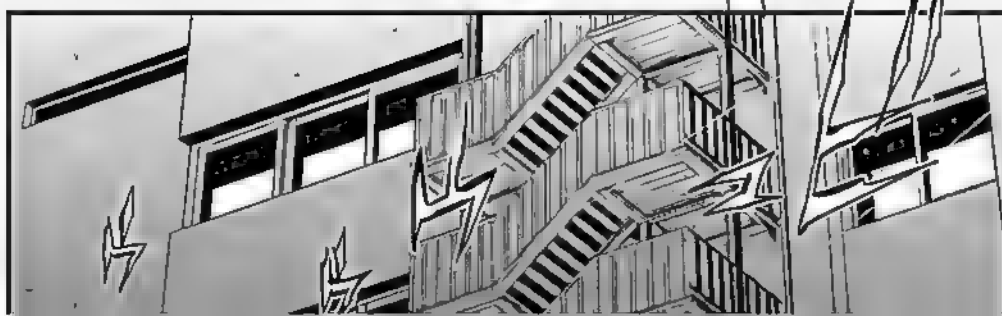
佐々…っつったか

お前の身元は判明した

神社の手がかりも得た
あとはそいつを調べるだけだ

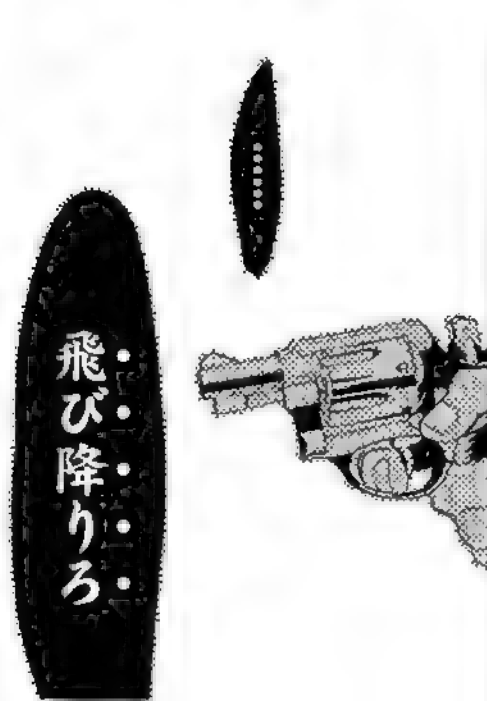
もう「お前」に出来ることは何もない
安登刑事も今後のお前の処遇に悩んでるだろうな

……その通りかもしれねえが…
結局何が言いたい

分からないのか？

お前はもう『用済み』なんだよ
最終的にオレたち八課のとる道は二つ
お前が神社に戻り呪いを再開することのないよう
半永久的に『何者か』に繋げておくか
・・・・・・・お前を消すかのどちらかだ
……ははっ
消すってのもおかしいよな？
お前はもう死んでるんだもんな
お
おい――……
うるさい!!!

お前が…『クビツリ』がいるから櫻先輩はおかしくなった

先輩は…あんなことする…人じゃない!!

お前が消えれば呪いは止まるし櫻先輩は

選ばせてやるよ

罪を受け入れ身を投げるか――

みっともなく背を向けて撃ち殺されるのか

〝罪〟……

……クビツリさんさぁ

もう蛇の使いなんて辞めて

このまま人間に戻っちゃえば？

まるで…普通の人間じゃねえか

本当はこちらの世界が現実で

怨結びの仲介をしてたのが夢なんじゃねえかって――…

……ああ
ほんのひとときだったけど
悪くない生活だったよ
…でも――無理だ

傷つけ
憎まれ
幾多の犠牲と罪を重ね
それでも『俺が』呪いの仲介を続ける意味は――
……悪いが

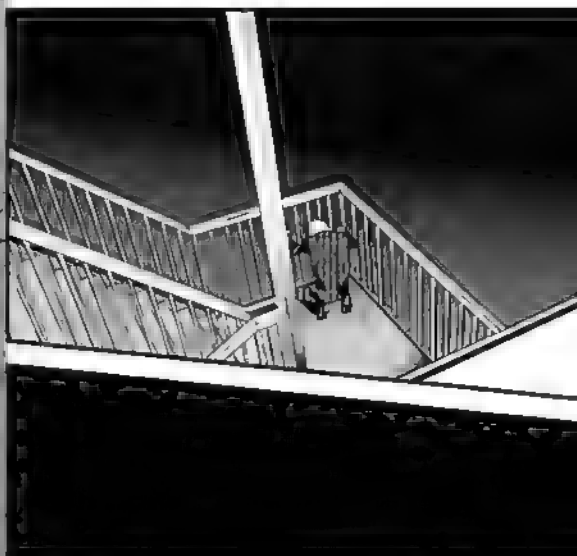
どっちも呑めねえな
何故なら選ぶのはてめえだからだ
はなから俺には選択肢なんてねえんだよ

意味はある
妾の良心となって欲しいのだ
──てめえがスッキリしたけりゃ殺せばいい
だが残念なことに俺が死んだところで呪いは終わらねえ
俺の代わりが来て何度でも何度でも繰り返される!!
ならお前のすべきことは何だ!?
なっ なにを…ッ
俺を怨め

今てめえに
出来るのは
・・・・
それだけだ
俺は蛇の
「良心の代わり」だ
呪いを重ね
それに因って生じた
業を全て引き受ける
俺に罪と怨嗟が
積もるほど
蛇の封印は解け
あいつは良心――
感情と…全員を
助ける力を得る
俺はその日まで
怨を
結び続ける…
失われた全ての
縁を取り戻す
ために――
――そう
蛇と
はっ
何かと思えば
時間稼ぎか
ああ怨んで
やるよ
殺してやる!!
約束
しちまった
からなあ……

スダーンッ

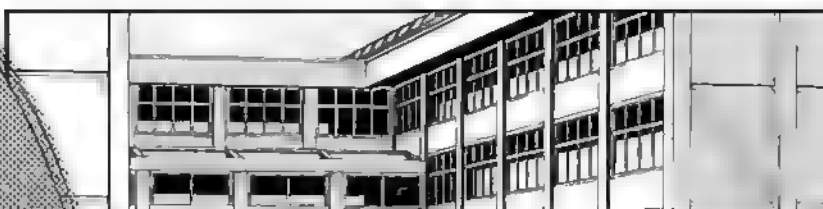
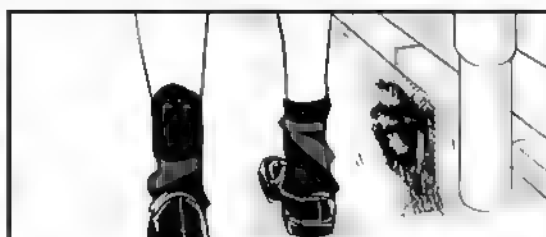
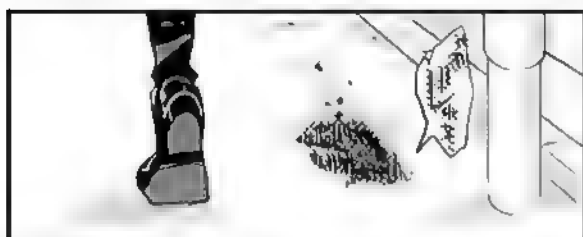
センパ…
悪いが
こやつをそう易々と くれてやるわけにも ゆかぬのでな！
貴様の上司に 伝えよ!!
我が名は 蛇(くちなわ)
クビツリが 長らく世話に なった
必要とあらば また いつでも協力するとな！

――久しいの
長の捜査協力ご苦労だったが――
妾は待ちくたびれたぞ
――…ああ

長らく留守にして――悪かったな
蛇（くちなわ）
……
…それだけか？
もっと…ないのか？「いつから観察してやがった!?」とか
あと…そうだの「櫻に何をしやがった!」…とか
――…そりゃまあ
事の経緯は気になるが
色々と腑に落ちてひとまず安心したからよ
あいつ……櫻は無事なんだろ？
無論だ
一緒に落ちたけど
気は失っておるだろうがあの場に残してきた
そうか

いつも
助けてくれて
ありがとな
けど櫻は解放して
やってくれねえか
あいつを
使わなくても
用があれば俺が
出向けばいいだけの
話だからな
わかっ
わっ
わかっとるわ!!!
元より
そのつもりだ
というか貴様ッ…
人間生活が過ぎて
気がたるんではおるまいな⁉
別に
そんなんじゃ
ねえよ…
神社のことは――
残念だったが
その なんだ…
土地が特定できたのは
あやつらのおかげだの
――ああ

今はマンションになってしまった廃神社――

かつてその土地で何があったのか

俺たちには知る義務がある

気分が悪い

ああいやだ
今日も『あれ』が居る
ひぇ!?
うちには見えるべきでないものが見えてしまう
あれっリヨちー
何処行くの?
5時限目の教室こっちだよ
あ〜…
ちょっと忘れ物…
クラスまで戻るから中央階段から下りるよ
え一一
見えるからといって霊感キャラはご免だ
今時オカルトなんざ流行らないし
だから高校では誰にも打ち明けてない
ああっ
角田(かくた)さん居たー!!

ちら

あいつ いっつも女の子連れてんな…

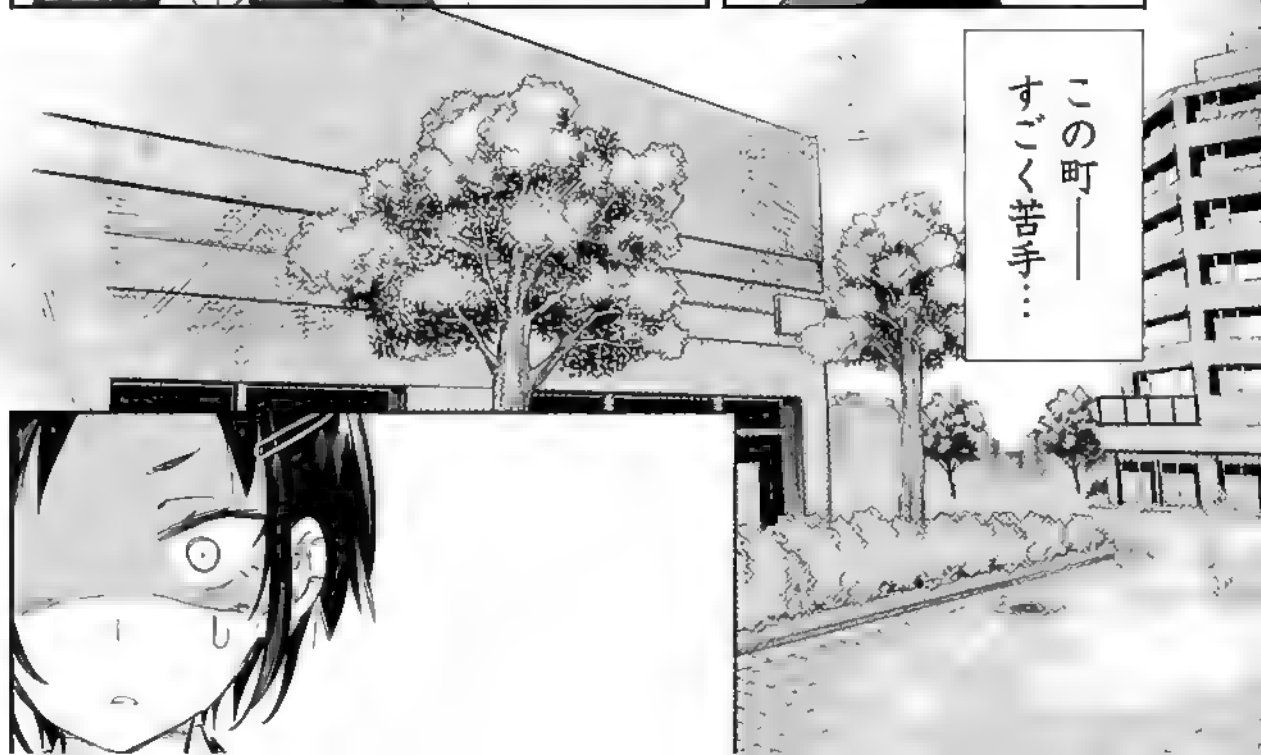
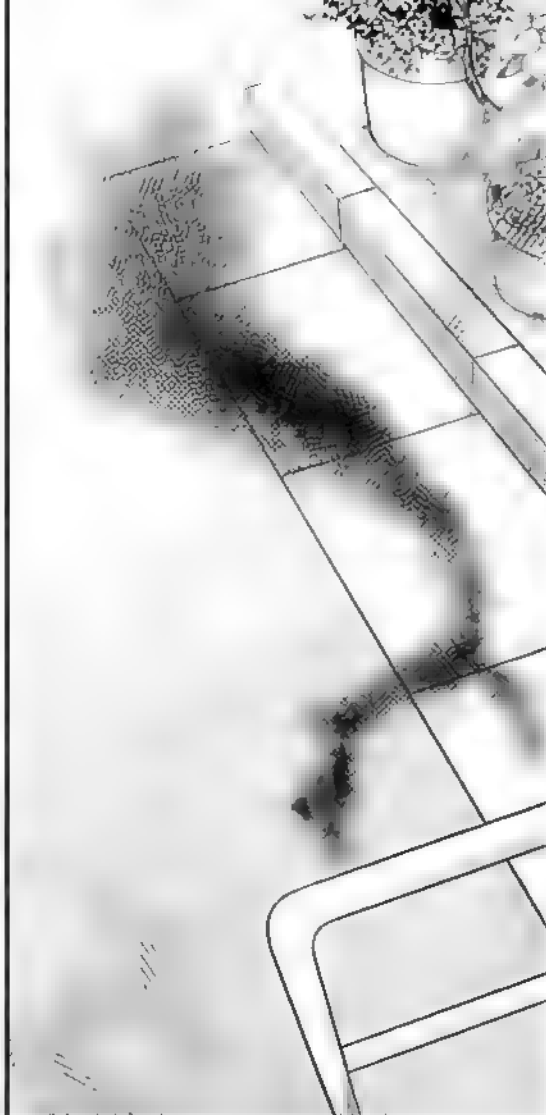
入学と同時に越して来て2年

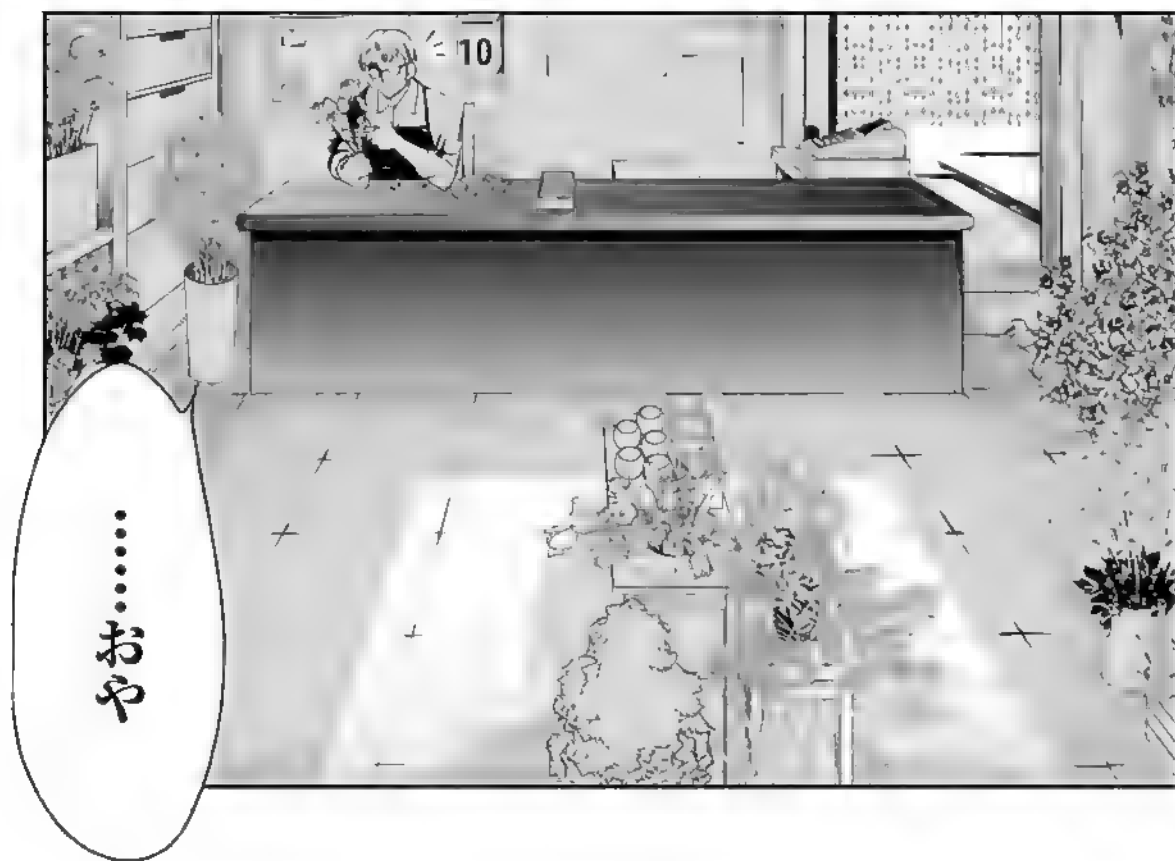
この町――
すごく苦手…

アレは駄目だ…
近寄っちゃいけないやつだ――

!!

……ッ
コツ…
コツ、
コツ、

ふう…
行こ、
あ……

あ――……また……だ
ヤツらと
エンカウントしすぎて
具合悪くなるヤツ……
この町は
見たくないものが
多すぎて
息が詰まる……
ぺたん。
……え
花……の
匂い？

……おや

10
この匂い
ここに来るのは
初めてのお客さんだね
…
におい？

第三十三節❖秘密の口づけ

……？

はあ……

え？においって

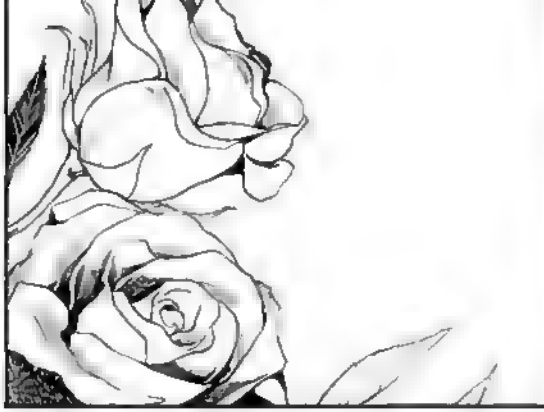
まさか

うち なんか臭う!?

大丈夫

くん くん

ていうか

すっごー……
花屋なんて
初めて入った
……いつの間にか
具合も良くなってる
ここには『奴ら』が
居ないから……？
ううん
それだけ
じゃない
なんだかここだけ
外と空気が全然違って
……居心地がいい
何か
お探しかな？
へ？
あっ 特に
用事はないんだけど
…えーっと
きょろ
きょろ
たまたま駆け込んだ
店がここだった…とか
言いづらー……
──あ

わあ・・・
花が閉じ込められて――
キラキラしてる
かわいー…
なんか この ちっこくて青い花 見覚えあるし
春になると大地を青く染める花だよ
ガラスに閉じ込めアクセサリーにしたんだ
こうしてやると改めて可愛さに気付けるでしょう
気に入って貰えたかな？
べ べっつに…
…まあ ちょっとは可愛いけど
ていうか……
あんた店長さん？
ここの花全部一人で世話を？
いや こんなに沢山世話をするとなると僕には難しい
実際この店は僕一人だけど
できない？
なんで――
この目は あんまり見えなくてね

せいぜい
色が認識できる
程度なんだ
目が――…？
ウソ…普通にしてると
全然分からないのに
だけど色が分かるから
かろうじて
店は続けられてる
そして幸いなことに
ここの花は世話をする
必要もない
全部ドライ
フラワー
なんだよ
生きてるように
見えるのがウチの
売りなんです
うっそ！
こんな生々しいのに
ドライフラワーなわけ
手触りだって――
あ!?
ごめ……
いい
いい
ドライ
フラワーの
良さがない
これなら
造花で良い
そう言う人も
居るけどね
そのくらい驚いて
貰えると嬉しいよ

…へぇ——……
はっ
に 似合わねーとか思ってんだろ!
え?
うちだって別に花なんかガラじゃないって分かってっし!
ちょっと気まぐれに立ち寄っただけだし!
姿は見えないけど君の持つ本質……空気というのかな
店にやってきた瞬間感じたそれは——
とても可憐な女性だと思いましたよ
かっ!?
?
ぷっ
ふつー初対面でそんなこと言う奴いるかよ……
…
にこ
にこ

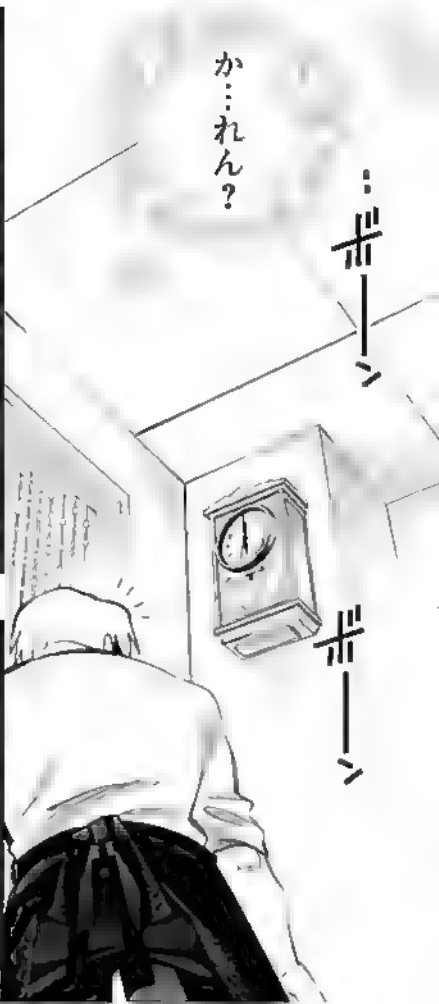
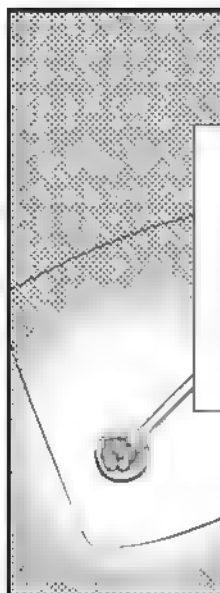
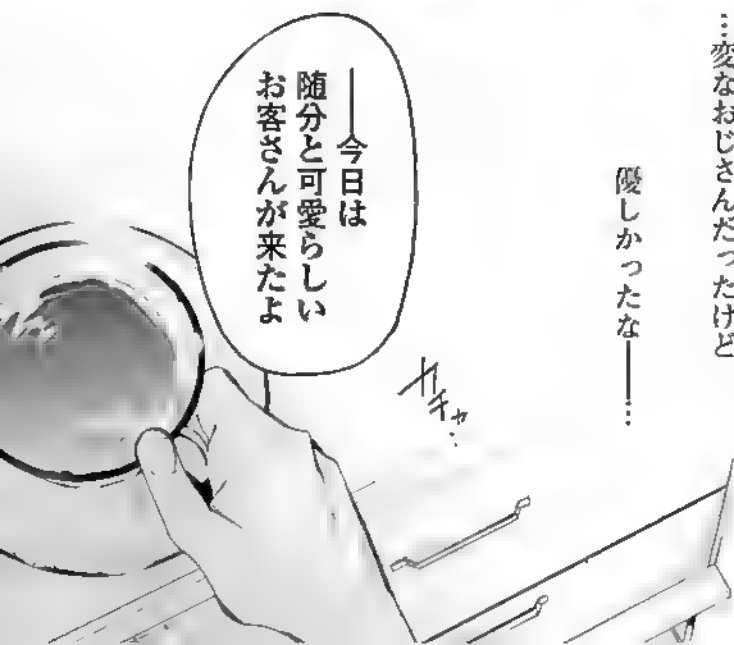
僕は目が見えない代わりにそういったものに敏感でしてね
匂いも そのひとつなんです
それとさっき君が気にしていた花はね
やっぱり似合うと思うんだ――
見てごらん
?
髪留め……？
青い花の入った――

え
ちょ
なっなにっ…
なに!?
やっぱヤバい
おじさんじゃん!!
ちょっとごめんね
動かないで…
どどどうしよう
声っ…こえ
出さないと!!
髪っ髪とかッ
顔に…手が 触れて――
ピクンッ
サラ…

はっ　はや……
……っ
おわって――…
…んッ
はやくっ……
あ……
なんで…
うち……
よしできた
どうかな？

はー
とっ…
は
はーーっ
あ!!
…す
すみません!!
つい…
花と同じ感覚でベタベタ触ってしまって——
花って…キザかよ…
ああ しまった またやってしまった…
ずーーん
……うち どうしちゃったの
こんな…見ず知らずの男の人に触れられて
キモチ…良い
…なんて
…いい…ちょっとびっくりした…けど
客にケーサツ呼ばれないよう気をつけなよ…
本当にすみません…
元々そのつもりだったのでお詫び…と言ってはなんですが
それはあなたに差し上げます
えっ

…いい
うちなんかが
持ってても…やっぱ
…なんか違うし
もっと可愛い
お客さんに――
『瑠璃唐草』
?
聞いたこと
ないかな?
あ…でも
「オオイヌノフグリ」も
「瑠璃唐草」って……
…あ!!
それだ!
思い出したー!!
昔 保育園の先生に
教えて貰って
変な名前だなーって
思ってたんだけど
そっかぁあの時の…
うわー…懐かしー…
ちなみに

オオイヌノフグリの意味は『犬の金玉』なんだよ
…おいおっさんつまりなに？
ウチには犬の金玉がお似合いってこと…？
違う違う!!
花言葉は——
これは『ネモフィラ』二つの花は似てるしどっちも別名を『瑠璃唐草』って言うんだ
そしてこっちの『瑠璃唐草』は英語でBaby blue eyesとか可愛く呼ばれてる
『可憐』
か…れん？
…ボーン
ボーン
やあ 名残惜しいけどそろそろ店じまいだね
キィ
気に入ったらまた——
…まっ
また来て良い!?
どうぞ

いつでもお待ちしてますよ
足が軽い
店に入るまで町中溢れていた黒い奴すら見当たらない
もしかして……「これ」のせい？
!
うっわ
うち こんな顔して歩いてたの!?
はっず——……
……
…変なおじさんだったけど
優しかったな——……
——今日は随分と可愛らしいお客さんが来たよ
カチャ…

初めは ひどく固い空気だったんだけどね
花を付けた途端――
まさに『香り立つ』ような…
彼女のような女性が花開く時は さぞ美しいだろうね
…少し君に空気が似てるよ
〝とても可憐な女性だと思いましたよ。〟
ぼ―――…
……うちは昔から『視える』体質で――
ちゃんのうしろいっつもへんな黒いのが居るー」
『梨世ちゃんヒドいよ』
『なんでそんなこと言ったの?』
『ウソついて友達怖がらせて』
大きくなってからはそういうの全部隠すようになったけど
…なんとなく女の子らしいグループには馴染めなくって――
しっかし梨世はブレないよなー

教師にマークされようが 服装検査だろうが それ絶対外さないもんな
べ…べっつにアクセで成績下がるわけでもないし
そーいうこじつけか嫌いなだけ
つか梨世が本気だした時のテスト まじやべーし!
居た居た「チャラチャラしてると馬鹿になるー」とか注意してきた学年主任のババア!
期末1科目学年トップ取って黙らしたもんなー
いやもーカッケーっす一生付いていくっす姉御!みたいな
だからやめろってそーいうのー!
…だってホントに違うんだ……
あれもこれも みんな
うちにとっては「魔除け」なんだ

気に入ったら
またいつでもおいで

あぁぁ

ア…

キィ

おや
いらっしゃい

また来てくれたと言うことは――
『瑠璃唐草』は気に入って貰えたかな？

…ほ
ホント…っ？
――あ
ああ…そういえば
昨日の来店も
この時間だったね
よいしょ
…もしかして
学生さん？
はあ？
今更なに――
…って！
そっか
姿は見えて
ないから――
――…

…ちっ違うし！
社会人だしー

しっ仕事が
不定期？
っていうか

…そう！
時間に融通きく仕事
なんだよ だから……

ああ…
そうでしたか！
これは失礼

…って——

は——

は——…

なに唐突に
意味不明なウソ
ついちゃってんの うち

あんなに可憐だなんだって
『女性』どして褒めてくれたのに

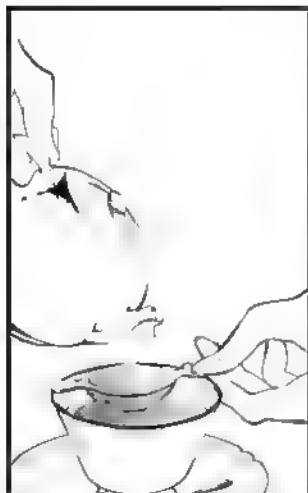
今更子供扱いされんのは

……なんか 癪だ

…店長はさー
なんでこの店
やってるの

花好きなの？

うと
うと
……なんだよ
おじさんどころか
おじーさんじゃん…
客が居るのに
寝んなよ…
……
おっさんのくせに
まつげ長いなー…
じっ…
え

コト
ウソ……
消えさえしなきゃ
ごく普通に生活してる人
みたいだった…のに
今…の──
…人間 じゃなくて
『黒い奴ら』と同じ
…幽霊？
スゥ…

しかもあんな若い……
ここに『出る』ってことは
……店長と
なんの関係が…？
やっぱ
・・・そういう・・・？
ズキン・・
……なんで
胸のあたりがむかむかする
なんで
――…あれ

…何しよーとしてんの うち
落ち着こうよ初めてだよ？てかヤバイって
寝てるし…バレない
よく知りもしない昨日会ったばかりの男の人――
しかも絶対パパより年上の
どうせ誰も見てない…
……ここで暮らす大人の女性
そうだ まるで
奥さんみたいに

ヤバ…ヤバイヤバイ
キスって全然きもちよくないッ
生温かいし湿っぽいしっ
ていうか髭めっちゃチクチクすんだけど!?
剃れよ!!
じゃなくて
落ち着こうようち…
ファーストキス…
おじさんと…
え———…
うっそ…うちそういう趣味だったの…?
…でもやんなきゃ気が済まなかったんだもん
あの女性を見たらなんだか無性に———
すみません
ぴゃあ!?

あー……ちょっと聞きたいんだが——
…あっと 悪い
あんた…ここの人？
はっ
…へっ？ あ
ちっ違う!!
けど店長は今ちょっと…
こんなで
そっか
あー……
…わりい 邪魔したな
キィ…
また今度来る
バタン
……

――神社の周りを調べてみりゃあ
シュル…
近場に何十年も前から代々地主が住んでるっつーから何か訊ければと思ったが…
まさか神社の跡地に店を構えてるとはな
…しかし
スマートフォンてやつは滅茶苦茶便利だなー…
そのうち返さないとだよなぁ
…ま ひとまずここは日を改め――
…クビッツリ

？
蛇（くちなわ）か
…どうした
珍しいな
……今の娘
あやつにはあまり――…
……いや
なんでもない
あ⁉
なんだ？言いかけたら話せよ
…こい
天杉堂（あますぎどう）の新作すいーつを買ってこい
お前…
こりてねぇなホント

こっ…わ……

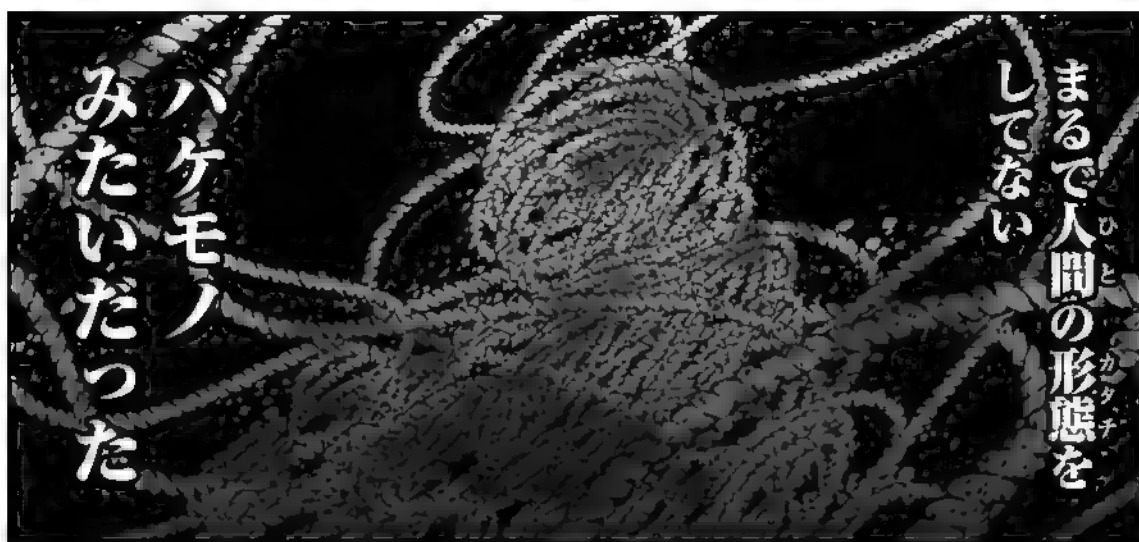
なんだよ
今の客…
フツーに
会話して…
今度こそ
幽霊じゃ無くて人…
だったはずなのに

……一瞬だけど

まるで人間の形態を
してない
バケモノ
みたいだった

ぱしゃ…
怨結びの呪いと——
この封印……
『呪いが成就した数だけ』
『封印が解けてゆく』
ちゃぷっ
ちゃぷっ
ぱしゃん…
『怨結びを使い切った蛇は縁を結ぶ赤縄へと戻り——』
『消えた人々と代償…呪いにより失われし縁を』
『再び結い戻す』
……か
だが
全てを正すということは——
第三十四節❖つぼみ狩り

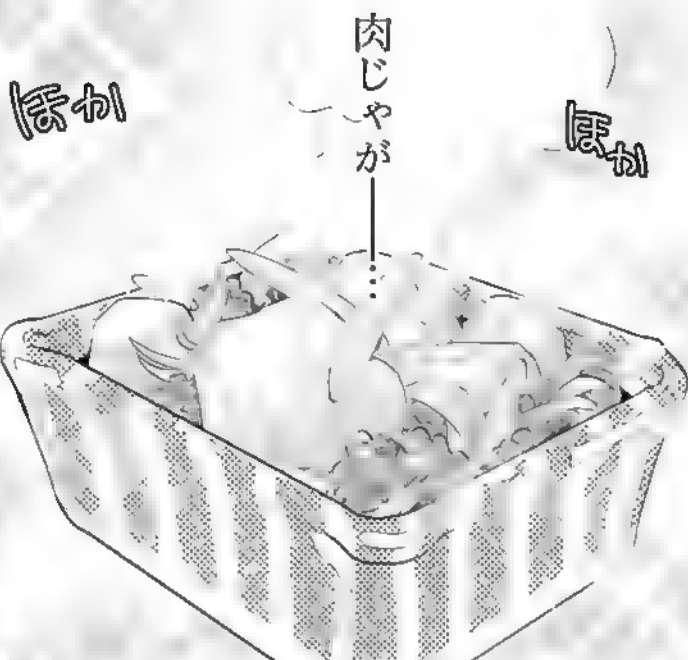
……妾は
再び憎まれようとも
あやつを――
第三十四節❖つぼみ狩り

りーよっ
ああっ スゴい…
周りがなんと言おうと君を愛してる……
そんなに激しく求められたらわたし…
おじさま…♥
なんじゃウよおぉ〜〜〜〜!!
梨世ー？
今日は4時限終わりだしどっかいこーぜー
ぶああっ!!!
ひやいッ!?
ひくー
あ…あー そうだ!!
今日も うち用事あるから… 先帰る——!!
ぎゅん

てんちょー!!
ごめん遅く
なっちゃった!
がっ…仕事帰りに
スーパー寄ったら
レジ並んでてさあ!!
お昼時
だから!?
いいんですよ
そんな
それより昨日も店の片付けを
手伝って貰ったのに
なんだか申し訳なく…
いーんだって
うち今仕事暇な時期で
退屈してっし!
んじゃあ
今日は約束通り
お昼
作るね!
大丈夫かな……
あれ以来うちは
毎日ってくらい
この店に通ってる
最初の内は黒い奴らの
寄り付かないこの場所が
居心地良いってだけの
理由だったけど

今は——
ぽ
ぼっ
きっききキス…は
正直 気持ち良さとか
全然分かんなかったけど
かあぁ
あれから うちは
自分でも信じられない
くらいおかしい
学校でもずっと
店長がチラチラ浮かんで
頭から離れないし
なのにいざ会いに行くと
全然落ち着かないし
そわそわして
店長といると
すぐ耳が熱く
なるし——
ぽ
ぽ
…とにかく今は
どんな理由でもいいから
「この人と居たい」——…
…お お台所
借りていい？
あ…どうぞ
ここから上がって
ください
段差に
気をつけてね

…わ
わあ――――…
中は意外とレトロな感じ…
ついに店長のおうちあがっちゃったぁぁ!!
あのー…でも大丈夫ですか？
なんだよ信用してねーの？
でも料理は火や包丁を使うでしょう
あなたが万一怪我でもしたら…
やさしい♥
正直時々危なっかしいので…
そそそ掃除だって慣れてからは割ったり壊したりしなくなったじゃん！
も…もーガキじゃないんだからダイジョブだって
店長はお店で待ってて!!
はい…

あれ…切り方違う！
くし型…乱切り？
何か意味あんの？
うわ溢れた――！
好きな量でいっか♪
大さじ2…大さじ2分の1…こまけー…
「少々」ってどんくらい？
心配
ひょこ
あ店長！
丁度いま一品できたんだよ
ヒマならちょっと味見してってってよ
ん…どれどれ
…！
こっこれは――

ほか
肉じゃが――…
ほか
…なんだろうけど ちょっと……
ぱくっ
いただき ます
店長――!?
なんでも なくないよ! むせてんじゃん!!
いやなんでも な……
ヴェホッゲホッ
貸してッ
…にっが!!
なにこれ え
にっが!…… …え… なんで…?
さ…砂糖たくさん 入れたら甘くなって… 絶対美味しいと思ったのに…
…おさとう

おさとう たくさん
入れたら美味しい
かなって…
あなたは甘い物が
好きだから…
ぱくっ
え!?
いや…
偶然とはいえ
嬉しくてね
肉じゃがは僕の
好物だったんです
…ってもう無理に
食べなくて良いよ!
ってか
食べないでー!!
死んじゃう――!!
それに昔作ってくれた人が
今の貴女と同じことを
言っててね…
はは…
懐かしいなあ
不思議と失敗した味まで
よく似てる――…
…それって
もしかして
…亡くなった――
…奥さん…?

…！
驚いたな
ここで時々
現れては消える
女の人の日常を見てたから
…彼女のおかげで
他にも分かった
ことがある
あれ…僕
あなたにこの話
しましたっけ…？
あの人も——
…たぶん私が恐れてた
『黒い奴ら』も
ただ生前の営みを
繰り返している
だけなのだ
……別に
…イヤでも
分かるって
……
あなたは…
……きっともう
奴らに意思なんてないんだ
そこにあるのは
ただの記録映像
——つくづく
…不思議な女性だ…
はあ〜…
けど うちにはやっぱ
向いてないのかなあ…

不器用だし
可愛さのカケラもないし
…ホントは料理だって
したことないんだ
エプロンからして
似合わなくてさ
憧れとは正反対…
…そんなこと
ないです!!
……あ
びっくり
…その 確かに普段から
そういうそぶりを見せる人
ではないと思います
なのに時折ふと…
驚かされる
前にも言ったように あなたは
自分で思っているよりもずっと
魅力的な一面を持ってるんです
なので
それが花開けば
あなたはきっと…!
……梨世

『あなた』とかじゃなくってさ…『梨世』でいーよ
…い一瞬誰のことだか分かんねーし…
はっ
お…大人だけどね！
はは…じゃあ――梨世…さんですね
…かな
…敬語は癖なのでおいおい直していきます
えっ
あ…あと敬語やめない？
見えないから意識してないかもだけど私ぜんぜん年下だし
いやでも…
いいのかなあ…
むふー
ね、ね じゃあ今度は店長のなまえ――
おーい幸司義兄さん！
いるかー？

ああ…しまった！
今日は義弟が来る日だったんだ！
ええ!?
本当にすみません仕事の話で長くなるかもしれないから今日はもう
いいいよ待つよ！
まだ一品しか作ってないしっ
他にも色々用意したいから!!
…ありがとうございます
…僕も梨世さんの手料理は楽しみですから
それじゃあ…なるべく早く戻りますね
…あーゆーのサラッと言えちゃうあたり大人だよなあ…っ
良い…♥
そしてなによりっ…
『幸司義兄さん』

店長の名前
聞いちゃった
…!!

きゅ

こーし…
こうし かあ…❤

ん❤

………

…そだ
いつもあの人が
いれてる紅茶

きっと
店長の好物
だよね…

突然私が
用意してたら
驚くかな

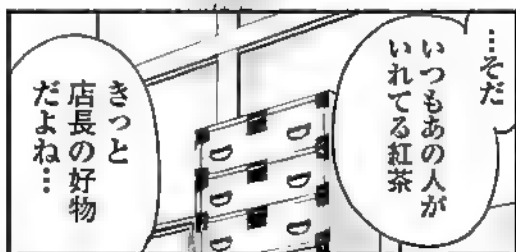
えーっと
紅茶の場所は
確かー……

きょろ
きょろ

あ……

…なんだろ あれ

神棚に
木の枝なんて
へんなの…

…じゃなくて
紅茶紅茶!

んじゃ このリストでガラス工房のジジイに頼んでくるよ
花の加工はいつもの？
ああ
…ありがとう
この店は何から何まで義弟夫婦に頼りっぱなしだ…
いいってことよ！うちで育てた花も高く買ってくれてるし
困ったときはお互いさまってな！
でもまあ…
あー 話は変わるんだが…
実は知り合いの伝手でいい物件があるんだ
義兄さんにその気があるなら―― ここを畳んで静かな土地でゆっくり静養することもできるんだぜ
…それは――
亡くなった姉さんも
義理立てして無理に店続けられるより
あんたが新しい幸せを見つけることを望むだろうよ
別に…彼女のためだけじゃないよ
神社のこともある
僕が婿に来る前から決まっていたこととはいえ――

ある日突然・・・訳あり風の男がこの店を訪ねてきて

その後マンションの駐車場で『首吊り死体』になったそいつを義兄さんが発見した——…だっけか

……違う
本当はそれだけじゃない
僕は
僕はあの時
彼に――
…義兄さんはそう警察に語ったわけだが
現実にそんな死体はなかった

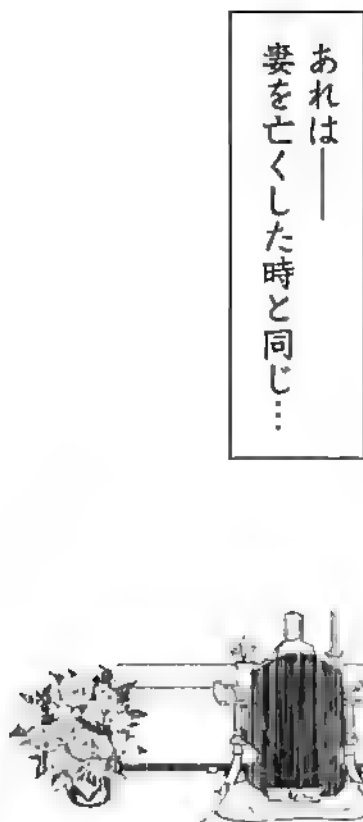
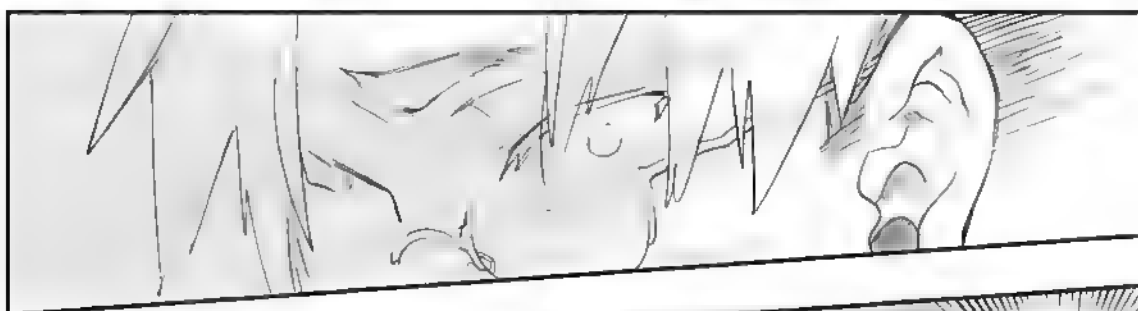
…死体は確かにそこにあった

僕はにおいですぐに分かってしまうから

あの時のにおい
あれは——

…ま 義兄さんもそう簡単には割りきれねーか

気長に説得するかねえ…

あれは——
妻を亡くした時と同じ…

コポポ…
!
…紅茶の香り…!?
梨世さんが？
何故 今日初めて家にあがった彼女が収納場所を
何故
数ある茶葉の中から『あれ』を——

あ
お話終わった？
いま丁度
紅茶いれたとこ
だったんだ──
──そう
いつも見かけるあの人の
口の動きは確か
こう言ってたはず

『幸司くん』
紫乃…!
――…
『しの』…?
……ああ
そういうこと

店長――ホントは寂しかったんだ…
…そりゃそっか
奥さんを亡くして ずっと一人で
……でも
うちなら
きっと――なれる
昔の二人にしか
分からないはずの
色んなことを
うちはユーレイを通じて
『視る』ことができる
だから
うちなら…できる――
……ね
ずっと黙ってたけどさ
……実は
実はうち…

…うちは『しの』の生まれ変わり――
……なんだよ…？
奥さんに代わって　この人のそばに
……紫乃
紫乃っ…

…
…
こ
こうし…く…
はっ…
か 嗅ぐのやめ…
はずかし…
…こうするとね
分かるんです
…良い匂いだ…
!
匂いで
つぼみが
花開こうと
しているのが——
ひぅッ!?
カラダが
勝手に
…もっと——
ふぁ!?
あ…あっ
やめッ
そこやめ…
背筋がビリビリして
僕に嗅がせて
なに
こ…
れッ
なんかッきて…
こんな——
こんなに
されたら
んああッ
だっ
め…え…ッ!!!

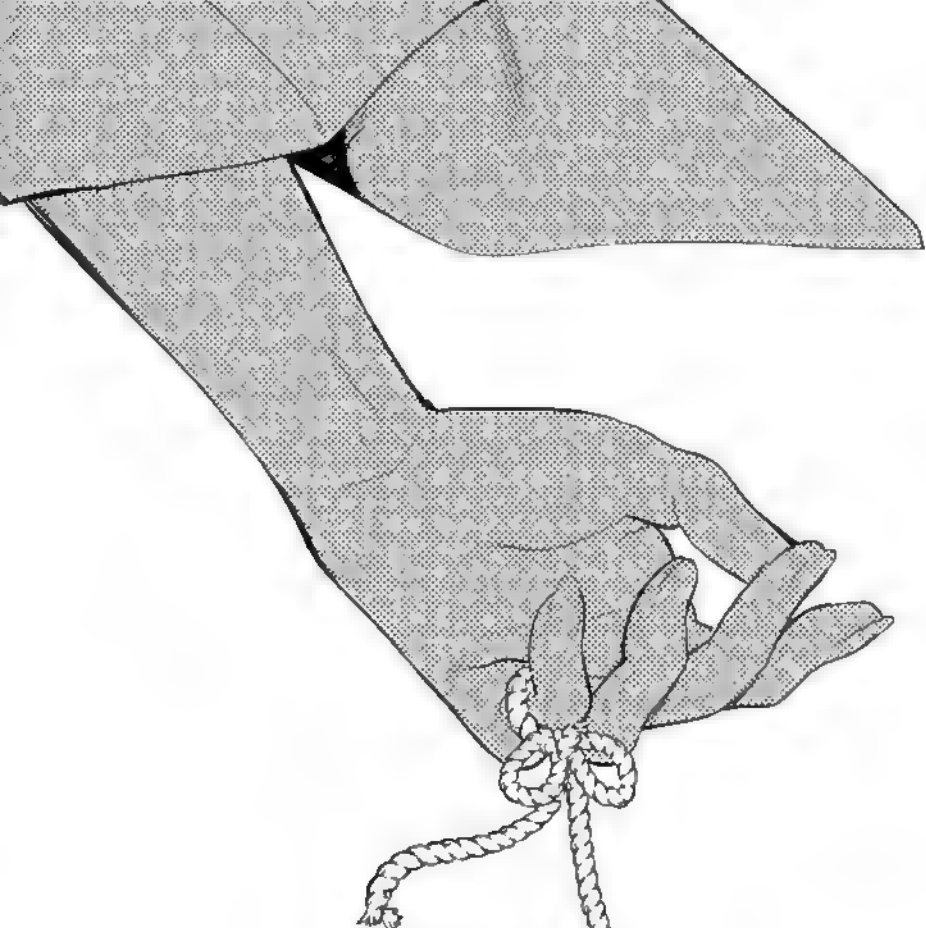
ホントにとんじゃうッ――…
こう…っし
くんは…
うちを咲かせて
ど…すんの…?

うちも…ドライフラワーみたいに
キレイに保管して
眺めるの…？
…僕は
——違う 僕は
…本当は
咲いたばかりの彼女たちを迎える度ずっと——
ずっと此の手で
散らしてみたかった

――蛇(くちなわ)
なんなんだ？
突然――

折角見つけた
神社の手がかり
だぞ？
しかもあの場所は
死ぬ間際の俺も
訪れたはずだ
重要な手がかりが
残されてるかもしれない
ってのに――
『もう行くな』
って…
なんでだよ!?
…あの娘や男に
接触して欲しくない
…？？
――それにの
ここしばらく長いこと
怨自体結んでおらぬだろ

あ――く……そのことは
悪かったと思ってるよ
俺が不在だったばっかりに――
くっそ
根に持ってんな――……
それも もうよいと
言っている
はぁ?
あ ああ…なるほど
謝罪じゃ足りなくて
拗ねてんのか
次は何がお望みだ?
スイーツはいいが
限定モノは勘弁してくれ
甘いもんは
区別付かなくて
大変なんだよ
もう…
やめにせぬか
さすればこれ以上
犠牲が増えることもない
何より
そなたを
いや…おいおい
なんなんだ?
らしくもねえ
どうした?
お前ここ最近
様子が――
だから
もう
Support Us
www.a-zmanga.net

もう…
怨結びを終わりにせぬか
『神さまの怨結び』第⑥巻／完

KAMIZUKI SHIKI
2018.6
◆Special Thanks（敬称略）
カエル紳士／ぴーぽ
蒼井ミハル／奈春
担当H野
◆守月史貴公式サイト『かみしきのアレ。』
http://kamishiki.net
Twitter Kamizuki_S1

求婚
好意を抱いてくれる女性が
高校生とは知らず
真剣な交際を申し出る男……
身分を偽る女子高生は、
嬉しく思いつつも返事を濁す……
罪罰
しかし自分に新しい生命が
宿ったことを知った女子高生は、
悩みの奈落へ独り堕ちていく……
発覚する嘘

別離と解放
一方、
蛇はクビツリへの
無自覚の罪と罰に苛まれ、
もう一人の、別の蛇を顕現させてしまう——
自らを紅と名乗る別の蛇を
前にクビツリは!?
白い
神さまの縁結び7
かみさまのえんむすび
待て、しかして渇望せよ!!

電子特装版

神さまの怨結び6

かみさまのえんむすび

限定特別画集

守月史貴

Champion RED Comics

KAMISAMA NO ENMUSUBI
Presented by KAMIZUKI SIKI

KAMISAMA NO ENMUSUBI
Presented by KAMIZUKI SIKI

O ENMUSUBI
AMIZUKI SIKI

KAMISAMA NO ENMUSUBI

Presented by KAMIZUKI SIKI

KAMISAMA NO ENMUSUBI

Presented by KAMIZUKI SIKI

KAMISAMA NO ENMUSUBI

Presented by KAMIZUKI SIKI

KAMISAMA NO
Presented by KA

細身+ちょいブス+三白眼
角田梨世(仮)
ちぎり
比較

KAMISAMA NO ENMUSUBI

Presented by KAMIZUKI SIKI

菓子が尽きた…
あとは たのむ…ぞ…
またか
ちまちまお使いすんの めんどくせーし
まとめて ストックしとくか
お決まりですかー？
コレと コレと…

ほぼ完食

…蛇
今度はなんの影響受けたんだ？
今パシリっつったろ
妾は貴様と違って柔軟だからの
常に流行の情報を取り込んでおるのだ
つまりだな
クビツリよ！
貴様はもっと使い魔らしい格好をするべきだと思うのだ！
何勝手に入れてくれちゃってんの⁉
携帯借り物なんだからやめろよ！
そんで俺より使いこなしてんじゃねぇよ泉立つな
ソシャ
四の五の言わず妾の言う通りにせよ！
それともあれか？いつぞやの少年の如く短い袴でも穿くか？
蛇
なんで今そいつ持ち出した⁉
だいいち冬野とかいう奴は単なる女装趣味だろー
なんで俺が真似しなきゃならねーんだ
ギャー　ギャー
……
そなた「仲介役」だの「共犯者」だのと格好つけて名乗っておるが──
ようは妾のパシ……「使い魔」というやつであろ？
暇潰し
神さまの悪縁結び 陸
なんか…すまぬな
思ってたのと違った
もう脱いでよいぞ
……
根気負け
大鎌 ないので りつで代用
お買いあげありがとうございます 2015.6.20 守月

チャンピオンRED
コミックス

神さまの怨結び 6

（かみ　えんむす）

2018年7月1日　初版発行

著　者　守月史貴（かみづきしき）

発行者　沖　浩

発行所　株式会社 秋田書店

〒102-8101　東京都千代田区飯田橋2-10-8
☎編集(03)3265-1326　販売(03)3264-7248
製作(03)3265-7373
振替口座 00130-0-99353

印刷所　大日本印刷株式会社

Printed in Japan

ISBN978-4-253-23579-2

デジタル版　2018年発行
製作所　デジタルカタパルト株式会社
http://www.digital-catapult.com